

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第724号（令和六年六月号）表紙

- ・夏の季語：「紫陽花・(四葩^{よひら}の花)・(額の花)」(仲夏・植物)
- ・来月号（七月号）の兼題



<紫陽花>

日本の梅雨を代表する花。花びらのような四枚の萼の中心に粒状の花をつけ、これが集まって毬を形づくる。ピンク、白、青紫と花種も多く、また色が変わるので「七変化」ともよばれる。庭木や鉢植えとして栽培される。

(子季語) 四葩の花、額の花、七変化

季語「紫陽花」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- | | |
|-------------------|------|
| ・紫陽花や藪を小庭の別座敷 | 松尾芭蕉 |
| ・あぢさゐを五器に盛らばや草枕 | 服部嵐雪 |
| ・あぢさゐや仕舞のつかぬ昼の酒 | 岩間乙二 |
| ・紫陽花やはなだにかはるきのふけふ | 正岡子規 |

- ・紫陽花や白よりいでし浅みどり 渡辺水巴
- ・紫陽花に秋冷いたる信濃かな 杉田久女
- ・あぢさゐに触れて缺のくもりけり 高田正子

☆高得点者および高得点句

*前月の清記表に記載された13名の91句のなかから互選の結果、以下の同人が高得点者となりました。併せて高得点句も掲載します。

<高得点者(敬称略)>

21点 温州、15点 恵吾、13点 碧亥、穂心、12点 草炎、10点 史浩

<高得点句(5点以上)>

- ・灯台に向かふ坂道花みかん／温州 5点
- ・雨音を聴くや旅寝の春障子／碧亥 5点
- ・風光る明日香謎めく石舞台／恵吾 5点
- ・手アイロン軽く滑らす春衣／緑汀 5点
- ・七色に光る蜘蛛の巣通り雨／温州 5点

<4点句(惜しい!もう少しで5点)>

- ・麗かや小さきパン屋の店開き／緑汀
- ・うたた寝の妻の白髪や目借時／碧亥
- ・炒めても青確かなり春キャベツ／史浩
- ・長閑けしや陶の狸のとぼけ顔／恵吾
- ・花の雲抜き出て凜と天守閣／草炎
- ・真っ直ぐに伸びる国道麦の秋／温州
- ・風船に丸く描きたる母の顔／甲舟

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

今月号は「背丈の低い春の草」を取り上げ解説されています。



○右上：カラスノエンドウ（烏野豌豆）（別名：矢筈豌豆）

- ・日当たりのよい畦道、道端、公園によく生える蔓性の柔らかい越年草で我が国原産であるが地中海も原産地の一つ。花の付け根に「花外蜜源」という器官があり蜜を出す。この蜜に呼び寄せられたアリは他の虫を追い払う。共存共栄の間柄である。古代の地中海周辺では食用として栽培されていたと考えられている。

○左上：スズメノエンドウ（雀野豌豆）

- ・カラスノエンドウと同じところによく共生している柔らかい蔓性の日本固有の越年草。春に咲く白紫色の花は3mmほど、花後に成る莢は10mm以内、中の豆は2mmと草丈以外はカラスノエンドウと比べてずっと小柄である。名前も小柄のゆえ付けられた。

○右下：ヒメウズ（姫烏頭）

- ・草地や道端などのやや湿った場所に生え、半日蔭を好む宿根草の在来種。草丈20cm程で春に白色の小さな花をつける。プロトアネモニンという毒性を持ち、汁が肌に触れるとかぶれることがある。和名は小さな烏頭＝トリカブト類の根との意味を持つ。

○左下：オニタビラコ（鬼田平子）

- ・春の七草のホトケノザの別名はコオニタビラコで本種は近縁種である。コオニタビラコはたんぽぽに生えるが本種は道端や荒地に生え乾燥によく耐える。鬼という名の割にはやさしい野草である。春にたんぽぽに似た小輪の黄花を一茎から多数咲かせる。食べられるという。

②近況報告&炉辺談話

○河本要様

- ・和歌山に桜を見に行かれたと。往復阪和線にて。山中溪の桜は素晴らしかったと。5年前の和大経済合格後、独りで六十谷までの銀の峰コースを歩かれたそうです。

○北草炎様

- ・医者通いを続けながら、毎日忙しい日々を送られているそうです。ここ一か月ほどは、比較的無事とのこと。娘さんが同居されているので気楽とはいうものの娘さんもお仕事があるので甘えてばかりではいけないということで、色々手を抜きながらあまり人様に迷惑を掛けないようにされているとのこと。

○後藤碧玄様

- ・和大硬式野球部が明治神宮全国大会の出場権を得られたことを大変喜ばれています。国立大学でこれほど全国大会出場経験があるのは物凄いことではないかと。若者の関心が関東圏中心となっている状況、人口減少が続く現実、進学者も関東中心の傾向が強い現代において和大的ような地方国立大学がいかにして生き残りを掛けていくか大変難しい問題だと。

○安本緑汀様

- ・後藤碧玄様が前月号でどんぐりに纏わるエッセイを投稿されてことに対してお謝辞を述べられています。続いて、クヌギに関して次のコメントをされています。「クヌギは子供たちにとって素晴らしい木だと思います。カブト虫やクワガタ等の甲虫類が最も好む木ですし、私も子供たちが幼い頃、早朝、クヌギにしがみついているカブト虫にクワガタを一杯取った記憶があります。青々とした新緑に秋には実をつけ、子等が喜んで採集します。私は、各小学校にクヌギを植えて欲しいのです。格好の教材になると思うのですが。碧玄様の大切なクヌギ、子孫代々語り継ぎ守ってくれることでしょう。」

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の13名
- ・昭和38年(1963年)結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年(2022年)6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名(高商32名、高商教授1名、大学39名)

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋(大学17期)(俳号：穂心)
メールアドレス：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先;
 - ・山下 勝(大学14期・前編集者)(俳号：勝)
メールアドレス：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康(大学20期)(俳号：温州)
メールアドレス：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

(文責：平林 温州)